

**CASBEE-建築(新築)2016年版**  
**福岡大学体育寮(仮称)**

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版  
 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート						
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>						<b>3.1</b>
<b>Q1 室内環境</b>			0.40		-	<b>2.9</b>
<b>1 音環境</b>		<b>3.0</b>	1.00	<b>3.0</b>	1.00	<b>3.0</b>
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.50	3.0	0.50	
1.2 遮音		3.0	0.50	3.0	0.50	
1 開口部遮音性能		3.0	1.00	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能		-	-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	3.0	0.20	
1.3 吸音		-	-	3.0	-	
<b>2 温熱環境</b>		<b>2.6</b>	0.35	<b>2.6</b>	1.00	<b>2.6</b>
2.1 室温制御		3.0	0.50	3.0	0.50	
1 室温		3.0	0.63	3.0	0.63	
2 外皮性能		3.0	0.38	3.0	0.38	
3 ゾーン別制御性		3.0	-	-	-	
2.2 湿度制御		1.0	0.20	1.0	0.20	
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	0.30	
<b>3 光・視環境</b>		<b>2.8</b>	0.25	<b>2.8</b>	1.00	<b>2.8</b>
3.1 昼光利用		4.2	0.30	4.0	0.30	
1 昼光率	【住居部】:4% A20	5.0	0.60	5.0	0.50	
2 方位別開口		-	-	3.0	0.30	
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策		3.0	0.30	3.0	0.30	
1 昼光制御		3.0	1.00	3.0	1.00	
3.3 照度		3.0	0.15	3.0	0.15	
3.4 照明制御		1.0	0.25	1.0	0.25	
<b>4 空気質環境</b>		<b>3.6</b>	0.25	<b>3.6</b>	1.00	<b>3.6</b>
4.1 発生源対策		4.0	0.60	4.0	0.63	
1 化学汚染物質	【共用部】【住居部】☆☆☆建材をほぼ全面的に使用。A17,18	4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気		3.0	0.40	3.0	0.38	
1 換気量		3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能		-	-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理		-	-	-	-	
1 CO <sub>2</sub> の監視		-	-	-	-	
2 喫煙の制御		1.0	-	-	-	
<b>Q2 サービス性能</b>		-	0.30	-	-	<b>3.1</b>
<b>1 機能性</b>		<b>3.7</b>	0.40	<b>2.0</b>	1.00	<b>3.0</b>
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	1.0	0.60	
1 広さ・収納性		-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応		1.0	-	1.0	1.00	
3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性		4.0	0.30	3.5	0.40	
1 広さ感・景観		-	-	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-	
3 内装計画	コンセプト、機能性を明確にし、パースなどで検証。A17,18	4.0	1.00	4.0	0.50	
1.3 維持管理		4.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計	内外装材は防汚性の高いものとし、外部の鉄部はメッキ処理。	5.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保	パイプスペースには点検口を設けている。A37	4.0	0.50	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>2.7</b>	0.30	-	-	<b>2.7</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.0	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性		1.8	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		1.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
3 電気設備		1.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		1.0	0.20	-	-	

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>4.0</b>	0.30	<b>3.3</b>	1.00	<b>3.7</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>					<b>3.6</b>	0.50	
1	階高のゆとり	各階高:2.9m以上。A-27	-	-	<b>4.0</b>	0.60	
2	空間の形状・自由さ		-	-	<b>3.0</b>	0.40	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	0.50	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>4.0</b>	1.00	-	-	
1	空調配管の更新性	構造材を痛めることなく修繕、更新ができる。A20-22	4.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	構造材を痛めることなく修繕、更新ができる。A20-22	4.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	構造材仕上材を痛めることなく修繕、更新ができる。A20-22	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	構造材仕上材を痛めることなく修繕、更新ができる。A20-22	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	更新・修繕時に建物の機能を維持できる。A20-22	4.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	0.30	-	-	<b>3.5</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>2.0</b>	0.30	-	-	<b>2.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>5.0</b>	0.40	-	-	<b>5.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
<b>3.1 地域性への配慮、快適性の向上</b>			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>3.2 敷地内温熱環境の向上</b>			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>							<b>3.6</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	0.40	-	-	<b>4.2</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>			<b>4.0</b>	0.20	-	-	<b>4.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>			<b>3.0</b>	0.10	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>			[BEI][BEIm] = 0.65	<b>5.0</b>	0.50	-	<b>5.0</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価							
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
集合住宅の評価			<b>3.0</b>	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	0.30	-	-	<b>3.3</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.4</b>	0.20	-	-	<b>3.4</b>
<b>1.1 節水</b>			<b>4.0</b>	0.40	-	-	
節水型便器など省水機器を採用している。							
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>3.4</b>	0.60	-	-	<b>3.4</b>
<b>2.1 材料使用量の削減</b>			3.0	0.10	-	-	
<b>2.2 既存建築躯体等の継続使用</b>			3.0	0.20	-	-	
<b>2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用</b>			-	3.0	0.20	-	
<b>2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</b>			-	3.0	0.20	-	
<b>2.5 持続可能な森林から産出された木材</b>			3.0	0.10	-	-	
<b>2.6 部材の再利用可能性向上への取組み</b>			躯体と仕上材が明確に分離。内装材と設備が錯綜していない。A20-	5.0	0.20	-	-
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>			化学物質排出把握管理促進法の対象物質を含有しない建材が5つ	<b>3.0</b>	0.30	-	-
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>				<b>3.0</b>	0.70	-	-
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		-	-	-	-	
3	冷媒		3.0	1.00	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.30	-	-	<b>3.3</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>			<b>3.8</b>	0.33	-	-	<b>3.8</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>3.1</b>	0.33	-	-	<b>3.1</b>
<b>2.1 大気汚染防止</b>			<b>3.0</b>	0.25	-	-	
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>			<b>3.6</b>	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-	
3	交通負荷抑制	駐車場、自転車置き場は適切動線、量を確保している。A19	5.0	0.33	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.33	-	-	<b>3.0</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.33	-	-	
2	振動		3.0	0.33	-	-	
3	悪臭		3.0	0.33	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	